

職場の防災対策

ガイドブック



金 沢 市

みなさんの職場を災害から守ろう！

— 災害に強いまちづくりを願って —



金沢市長 山出 保

市民の皆様には、日ごろから市政に対し格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災、そして平成9年1月身近に起こったロシアタンカー重油流出災害は、つい忘れがちな災害のおそろしさを肌で感ずるとともに、平素の備えの必要性を改めて痛感させられました。

大規模な災害では、初期の段階で家庭や地域、事業所等でいち早く的確な対応を図ることが何よりも大切です。先の大震災はほとんどの人が家で休んでいる夜明け前であったことが、どれだけ被害を少なくしたか知れないといわれます。被災地では、あの地震の直後からあらゆる企業活動のなかで復旧に向かって多くの人々が立ち上がり、いまなお社会と生活の復興をめざして懸命な努力が続けられています。

地震をはじめ火災、台風、水害、がけ崩れなどの災害は、予期しないときに発生します。そのときに、お店や工場、ホテル、銀行、病院、福祉施設など、あらゆる職場でお客様や従業員の命を守り、災害の拡大をいかにくいとめていこうかが求められています。

企業は事業活動だけではなく、社会の構成員として地域の人たちと連携しながら防災活動にあたり、より広く経済社会への貢献活動を進めていくことが望まれています。

この冊子は、あなたの職場でとり組む防災対策の基本についてご理解をいただくために作成いたしました。お役にたてれば幸いです。

も
く
じ

Part1 職場での防災活動は

もしものときの対応マニュアル	1
災害情報をつかむ・知らせる	2
避難誘導	3
被害を最小限に防ぐ	4
お客様や利用者・従業員の安全を守る	6
地域と連携した防災活動を	8
社会への貢献活動を	8

Part2 防災に対する日ごろからの備え

職場の防災環境のチェック	9
職場の防災活動を推進しよう	11

Part3 災害について正しい知識を

地震災害	13
風水害	14
土砂災害	15
火災	16
その他の災害	17
気象注意報・警報・情報	17

- 災害時の緊急連絡
- 職場の防災メモ

職場での防災活動は

もしものときの対応マニュアル

もしあなたが勤務中に災害に見舞われたら？

1 まずまわりの人の身の安全を

なにより大切なのは命。災害が起きたら、まず第一にその場にいる人みんなの身の安全を確保する。



6 けが人がいたらみんなで救出、応急救護を

助けを求めている人やけが人がいたら、みんなで協力して助けあい、応急救護を行い、お年寄りや体の不自由な人を守る。



2 すばやくあわてず、火の始末冷静に危険物の点検や整理を

「火を消せ！」と声をかけあい、暖房器具などの火を確実に消し、ガス栓をしめ、作業を中断して危険物の点検整理を行う。



7 非常の避難口を確保する

非常のときの避難口を確保し、お客様や入所者などに場所を知らせ、的確に誘導する。(あわてて避難しない。)



3 正しい災害情報をつかみいち早くみんなに伝える

火事か地震かなど災害の原因を一刻も早くつかみ、みんなに正しく伝える。(大きい災害はラジオやテレビで情報を集めよう。)



8 避難はあわてず落ちついて

危険がおよんで来て、外に逃げるときは、係員が先導し、道路や建物に危険がないか注意して、みんなで落ちついて行動する。



4 火が出たらまず消火そして危険の防止を

「火事だ!」「〇〇事故だ!」と大声で叫び、近所に応援を求め、初期消火や危険防止に努める。



9 避難は歩いて、安全なところへ

避難は歩いて、車は使わない。近くの空き地や公園、学校など安全な場所に集団で移動する。(狭い路地やがけ、川べりなど危険な場所に近寄らない。)



5 防災機関に緊急通報を

消防や警察、市役所などに災害状況を早く要領よく通報。消防士などが到着したら、協力して防災活動にあたる。

110 119



10 事業所の二次災害を防ぐ

施設の安全を確認しあうとともに、火災や風水害の拡大を防止するなど二次災害を防ぐように努める。



災害情報をつかむ・知らせる

いざというときに、災害から人的・物的な被害を最小限に抑えるため、職場の全員が一丸となって、迅速かつ効果的に災害に立ち向かわなければなりません。

職場の防災活動の目的は

- ①お客様や利用者、従業員の安全、安心を確保すること
- ②企業活動に必要な施設等を守り、被害を最小限に抑えること
- ③企業の社会的責任から、経済活動への影響をなくし、社会に貢献すること

ただちに災害情報を把握・伝達

- 「地震だ」「火事だ」など、災害の発生を大声で周囲に知らせる。
- 現場でできる最善の応急対策と安全措置をとり、本部に報告する。
- 地震や風水害などは、ラジオ・テレビの注意報や警報に十分注意し、備える（うわさやデマに惑わされない）。



被害の報告と事後対策

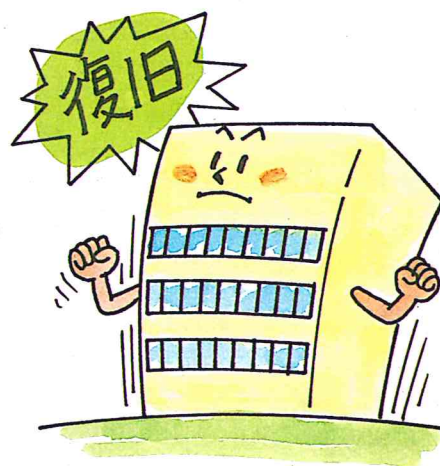
- 被災者の安否や被害情報を調査・報告し、適切な事後対策を講ずる。
- 会社内外への広報活動も、大事な任務。

1日も早い企業復旧を図る

- 応急の営業措置や操業の補完対策などを決め、顧客や取引先の理解と協力を求める。
- 施設・設備等の災害復旧計画をつくり、1日も早い経営復興を図る。

本部は災害対策方針を指示…組織的な防災活動を

- 本部は、応急防止措置や救出救護、避難誘導方針を的確に指示する。
- 非常放送等で災害内容・規模等を全員に知らせ、指揮者や防災要員を出動させる。
- 活動状況を掌握し、臨機に資機材の調達や人員の応援体制をとる。
- 火気や電気器具の始末や危険物の取扱い等を連絡し、災害の拡大を防止する。



防災機関への通報

- 消防や警察などの防災機関に緊急通報し、連携して災害活動に対処する。
- 地域から情報を収集・交換し、お互いに協力体制をとる。

避難誘導

危険な場所から離れ、まず人数把握

- あわてて出口に殺到しない。「落ちついて！」と声をかけあう。
- その場でお客様や職員の人数を把握する。
- ゆがみでドアが開かなくなることに注意して、ただちに避難口の確保を。

避難誘導は小グループに分けて

- 大勢の場合、最も怖いのは、パニック状態。整然と避難を。
- 10人程の小人数グループに分けて、将棋倒しなどを防ぐ。

2方向・歩いて避難が原則

- 避難口は常に2か所以上を念頭に、安全な方向へ誘導。

- 避難は歩いて、火元から遠い階段から。エレベーターやエスカレーターの使用は厳禁。

自力で避難できない人を最優先に

- 病院や福祉施設では、自力で避難できない人を最優先に搬送。
- 子供やお年寄り、手や肩をしっかりとにぎり、声をかけてはげます。
- 病气の人や障害者は、担架や車椅子などで。乳幼児は背負って。



とりあえず、危険区域からの脱出を！

- 大きな事業所では、まず危険区域の人を避難させることに全力を。
- その後、より安全な避難場所まで誘導を。

みんなを守る策を

- ガラスの破片で足を切らないよう、靴やスリッパをはく。
- 服装や持ち物にこだわらない。身軽にすばやく脱出し、決して火の中に戻らないように。
- 煙にまかれぬよう、姿勢を低くして、濡れたハンカチやタオルで口を覆う。
- 炎の中は、迷わず一気に走り抜ける。
- 建物に不案内な来訪者などには自信を持って適切な指示を。

こんな場所で災害に見舞われたときは

車・電車・バス

- 車のスピードを徐々に落として道路の左側に止め、エンジンを切る。
- カーラジオで情報を聴く。走行車両に注意し、急に車外に出ない。
- 車を離れるときはキーをつけたままにし、ドアロックも開けておく。
- 電車やバスでは、勝手に車外にでたり、窓から飛びださない。(乗務員の指示に従う)

がけ地・傾斜地・川沿い

- がけ崩れや浸水などに警戒をおこたらず、早めに安全な場所へ避難。
- 洪水の場合、歩ける深さは50cm程度まで。腰まで水があつたら無理せず高いところへ。
- 浸水した道路では、長い棒を杖がわりにして、安全な場所を確かめながら歩く。

海・港

- 台風のときは、漁船などの船は港の岸壁にしっかりとつなぎとめる。
- 津波などのときは、防災機関の指示に従い、漁船などは港の外に避難する。
- 海岸にいて地震を感じたら、高台や高いビルに逃げ、海辺に近づかない。



地下街

- 窓やガラスケースから離れ、大きな柱や壁に身を寄せる。
- 停電になっても非常用照明灯がすぐにつくので、落ちついて行動を。
- 煙をすわぬよう、ハンカチを鼻と口にあて、体をかがめて壁づたいに地上へ。



※金沢市の指定避難場所は…近くの小中学校や公民館、大きめの公園が指定されています。

被害を最小限に防ぐ

火がでたら

- 大きな声で近くの人や近所に応援を求め。 (1人で消そうとしない)
- 小さな火事でも119番に通報する。(出火から3分以内が消火の限度)
- バケツリレーや消火器、消火栓を使って、初期消火に努める。(水だけでなく、座ぶとんや毛布など手近なものを活用する)
- 防火扉などの閉鎖や消防設備の起動、排煙窓の開放などを行う。
- 消防隊が到着したら、引き継いで情報提供や延焼拡大の警戒にまわる。

その他の災害や事故には

- 災害箇所や事故の原因をよくつきとめ、災害に応じた適切な応急措置を行う。
- 台風のときは、外に出るのは控える。(吹き返しの強風にも、十分注意)
- 浸水のおそれのあるときは、土のうで水を防ぎ、貴重な品物は高い場所へ移す。
- 土砂災害などには厳重な警戒をおこなわず、いつでも避難できる態勢をつくる。

引き際が大事!

- 火や水などの災害の広がり方は予測できず、退路を絶たれることもある。
- 全員が消火作業等に参加するのではなく、指揮者をつけ、沈着な判断を。
- これまでという避難のタイミングを見極め、人の安全を第一に考える。(火災は、天井に火が燃え移ったら、いさぎよく避難する)

二次災害の防止を……火災を出さない

- 急いで火の始末をし、ガス栓や燃料弁を遮断し、なんとしても火災を出さない。
- 作業をただちに打ち切り、機械等を非常停止し、電源を切る。
- 危険物や化学薬品の安全管理や除去に努める。
- 敷地内外への影響を調べ、事後の警戒・安全対策に万全を期す。



阪神・淡路大震災の大惨事は、決して忘れない!

平成7年1月17日未明に発生した兵庫県南部地震は、一瞬にして神戸・阪神地域のまちなみを破壊し、6千4百名を超える尊い生命を奪い、未曾有の被害をもたらしました。

かつて経験したことのない都市直下型の地震は、高速道路や鉄道、港湾などの都市・交通基盤などに広域にわたる壊滅的な打撃を与え、住宅や工場、商店街等建造物の大規模な倒壊と密集地域を中心とする火災の発生により、関東大震災以来の大惨事となり、市民生活と社会経済に甚大な被害と影響をもたらしました。

われわれは、これを貴重な教訓に、災害に対する心構えをしなければなりません。

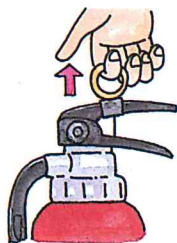
事項	主な被害	事項	主な被害
死者	6,425人	道路	高速道路ほか2,000か所以上
負傷者	43,772人	橋梁	落橋 56か所
家屋の全壊	神戸市12.2%、北淡町43.8%	鉄道	新幹線ほか被害甚大
火災の発生	神戸市一全半焼7,400棟 焼失面積: 65万平方メートル 延焼大火災、初期消火不能	港湾	埠頭の大部分使用不能
道路事情	落橋・倒壊家屋による障害大 通行止め多数 交通容量の8割が機能を失う	水道	123万戸断水、復旧90日後
		ガス	86万戸供給停止、復旧84日後
		電気	260万戸停電、復旧6日後
		電話	19万回線切断焼失、復旧14日後

消火器の使用方法

いざというときのために、消火器の正しい使い方や種類を覚えておきましょう。

消火器の正しい使い方

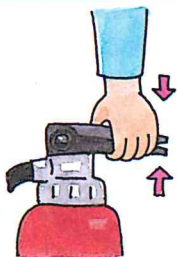
1 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。



2 ホースをはずして火元に向ける。



3 レバーを強く握って噴射する。



消火器のかまえ方

- 風上に回り、風上から消す。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や炎を避けるようにかまえる。
- 火炎にはまともに向かいあわないように。
- 燃え上がる炎や煙に惑わされずに、火元にノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

消火器の種類と用途

消火器は薬剤の種類によって、強化液消火器、粉末消火器、あわ消火器があり、火災の種類に適した消火器を選ぶ必要があります。消火器に貼ってあるラベルが適応する火災の種類を示しています。



A 普通火災

木材、紙、布などが燃える火災用



B 油火災

灯油、ガソリンなどが燃える火災用



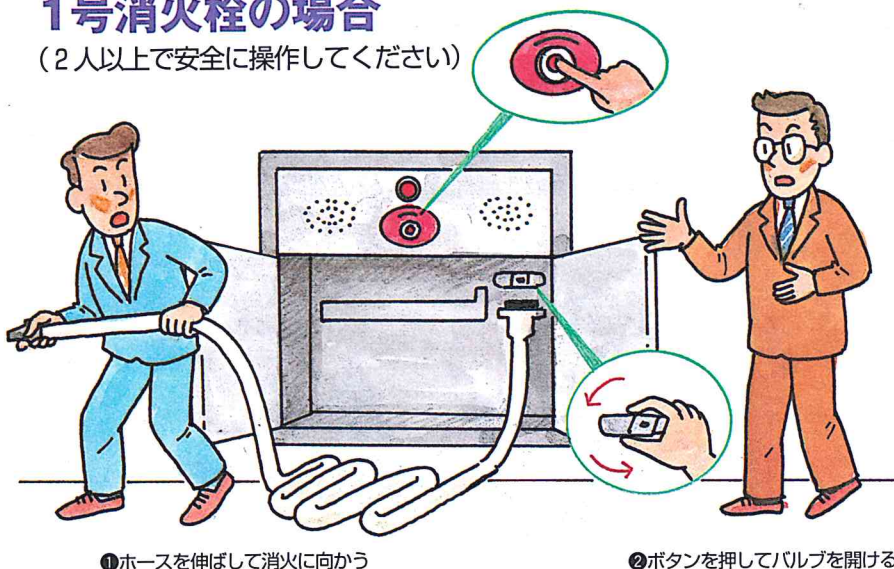
C 電気火災

電気設備などが燃える火災用

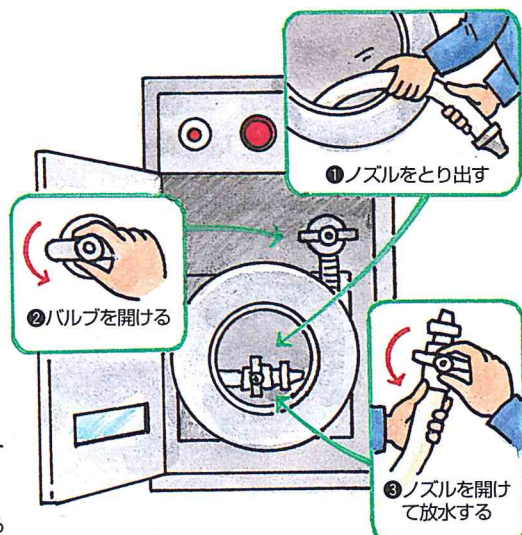
消火栓の使用方法

1号消火栓の場合

(2人以上で安全に操作してください)



2号消火栓の場合



お客様や利用者・従業員の安全を守る

救出救護

声をかけあって安全確認

- まず頭を低くして保護したり、机や作業台の下などにもぐり、身を守る。
- その場にいる人どうして安全を確認。
- 逃げ遅れた人や荷物等の下敷きになった人がいないか、大声で確かめる。
- エレベーターに乗っているときは、すべての階のボタンを押し、最初に止まった階で降りる。
- エレベーターやトイレなどに閉じ込められた人がいないか注意する。



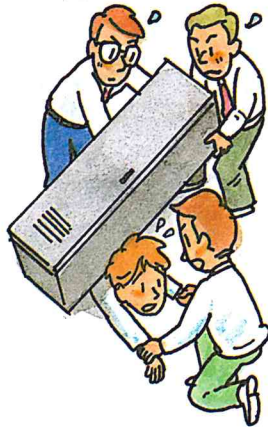
負傷者はすばやく病院へ!

- 軽いけがの人は、近くのお医者さんへ。
- 重症者は、救急車を呼ぶか、大きな病院へ搬送。



みんなで救出救護

- まずは人命救助。ひとりではできないときは、助けを呼ぶ。
- 危険がないか十分に確かめ、近くにいる人と力をあわせて救出する。
- 救出救護の資機材は、職場で使えるものは何でも利用する。
- 自分たちで救出できないときは、119番通報（消防隊にまかせる）。



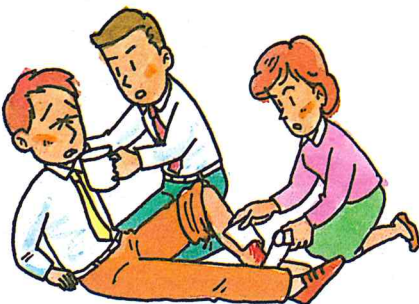
無理な帰宅は避ける

- 大災害のときは、二次災害に注意し、お客様や従業員の無理な帰宅は避ける。
- 危険が去ったときに、安全な手段で速やかな帰宅の手配を考える。



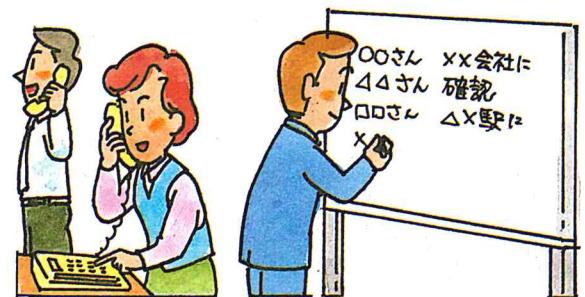
少しでも早く応急手当を

- けが人は、安全な場所で、一刻も早く応急手当を。
- 応急手当は、できれば2人一組で行う。



安否の確認・連絡を

- 最も気がかりなのは、被災者や家族、社員の安否。いち早く連絡手段を確保して、安否を確認。不安をとり除く努力を。



応急手当

呼吸のみかた

①あごを持ち上げて頭を後ろにそらす。



②ほほを口・鼻に近づけて息の有無を確認し、胸や腹の動きもみる



脈のみかた

①手首の動脈で確認する。



②確認できないときは、首筋の頸動脈で確認する。



人工呼吸

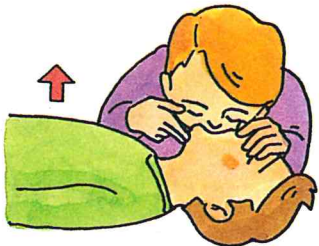
①気道を確保する

あお向けに寝かせ、あごを持ち上げ、頭をうしろにそらす。口の中に吐物がつまっている場合は、ハンカチなどを指に巻きつけ、ぬぐうように除去する。



②息を吹き込む

鼻をつまんで大きく口を開けて患者の口を覆い、息を吹き入れる（乳幼児の場合は、口と鼻を同時に覆って息を吹き込む）。



③吹き込んだ状態をみる

吹き入れるリズムは5秒に1回（乳幼児の場合は3秒に1回）、胸の動きと吐き出される息を確認。入っていないようなら、もう一度気道をしっかり確保しなおす。



やけど



①やけどした患部をただちに水につけて十分冷やす。水につけられない場合は、ぬらしたタオルなどをあてて冷やす。
②衣服の上からのやけどの場合は、衣服を着せたまま冷やす。
③水泡をやぶらない。また、患部に衣服がついていても無理にはがさない。

骨折

①折れた部分に添え木（副木）をあてて固定する。
②適当な添え木がなければ、手近にある板、棒、段ボール、雑誌などで代用を。



心臓マッサージ

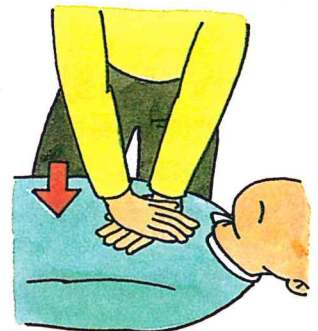
①準備

平らな場所にあお向けに寝かせ、救助者はそのわきで両ひざ立ちの姿勢をとる。



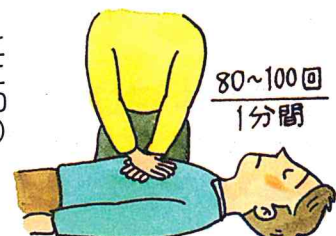
②圧迫

胸部の下半分に片方の手のひらの手首に近い部分をあて、その上にもう一方の手のひらを重ねる。ひじを伸ばし、胸全体が3.5~5cm沈むように胸骨を押す（乳幼児の場合は2本の指をあて、1.5~2.5cm沈むように押す）。



③圧迫の間隔

圧迫しおえたら体を起こし、手の力をゆるめる。この動作を1分間に80~100回（乳幼児は100~120回）のリズムでくり返す。



地域と連携した防災活動を

大きな災害が発生したときは、個人の力や自分の職場だけで対応するには限界があります。町内や地域全体が連携をとり、協力しあって、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識をもち、災害に向かって力強く立ち上がりましょう。

避難・救出・消火の近隣協力を

近くで災害が起きたらすぐに駆けつけ、すばやく人命救助や初期消火、避難、水防活動などを。(災害に対処できる技術や資機材をお持ちの企業には特にご協力を)

災害弱者を守ろう

自分の安全を確保できない幼児やお年寄り、障害のある人、外国人など、いわゆる「災害弱者」の人たちを最優先に助けあいましょう。



日ごろからの行動を 地域の人々とのふれあいを大事に

平素から近隣の人々と積極的に交流し、住民が結成する自主防災組織に参加して地域ぐるみの防災活動を重視しよう。

防災訓練に体験参加を

地域団体や防災機関が開催する防災訓練に積極的に参加し、いつでも行動をとることができる体制を築こう。



事業所を対象とした消火技術訓練

地域の事情に精通する

仕事や通勤を通じて、付近の地理や水利、公共施設、公園、病院など地域の事情を把握し、考えられる災害に備えよう。

社会への貢献活動を

阪神・淡路大震災やロシアタンカー重油流出事故では、大勢のボランティアが献身的な活動を行い、多くの企業も自らが被災しながらも積極的な救援・復旧活動に活躍し、被災者にとって大きな励みになりました。

災害対策活動にご協力を

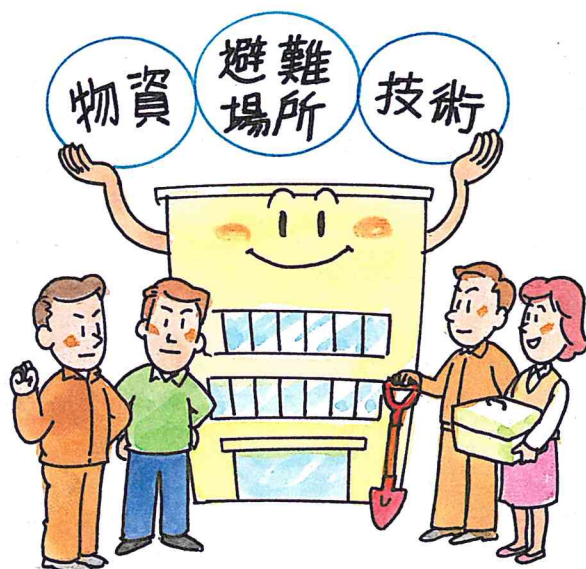
人員や技術、資機材、飲料水のほか、避難場所等への用地や施設の提供など、災害時の応急対策や復旧活動などに救援、協力をお願いします。

ボランティア活動を支援

企業や労働組合としての積極的な社会奉仕活動や、社員の自発的なボランティア活動を支援しましょう。

1日も早い社会や経済の安定を

生活必需物資の早期・安定供給や物価への配慮など、企業としてできるかぎりの社会貢献を行いましょ。



防災に対する目ごろからの備え

職場の防災環境のチェック

災害についての正しい知識を持ち、職場内外の防災環境をチェックして、危険箇所の予防・補強対策を進めておくことが、災害に強い職場づくりの第一歩です。

1 敷地のチェック

- 浸水のおそれはないか、排水溝にごみや泥がつまっていないか
- 近くにかげ崩れや土砂災害のおそれはないか
- 植樹や看板、外灯などは、強風にたえられるか
- ブロック塀や石垣などは崩れないか
- まわりに燃えやすいものやごみを放置していないか

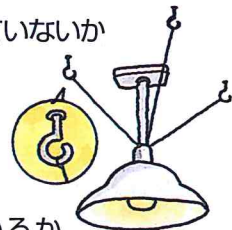


2 建物のチェック

- 建物の耐震診断は？ 耐震補強は行っているか
- 消火栓やスプリンクラー、自動火災報知機、消火器などの消防用設備は万全か
- 防火シャッターや防火扉、避難器具はきちんと整備されているか
- 壁や窓ガラスにひび・割れ・傷みはないか
- トタンや瓦の屋根やテレビアンテナは、強風にたえられるか
- 外壁に取り付けた看板や照明器具に落下の危険はないか
- 避難口となる出入口は、いつでも開放できるか
- 倉庫、空き家、車庫、車などにカギはかかっているか

3 建物内部のチェック

- ロッカーやショーケース、OA機器、大型備品は、固定や転倒防止がしてあるか
- 棚などの上に荷物や重いものを置いていないか
- 天井付近に取り付けられた設備や器具に落下のおそれはないか
- 階段や通路には通行の支障となるものが置かれていないか
- 火気使用設備は整理整頓されているか（フードダクトは定期的に清掃しているか）
- カーテン、じゅうたん等は防災措置がとられているか
- 電気コードは床の上にむき出しになっていないか
- 喫煙場所や給湯室は整理整頓されているか
- 非常持出品・備蓄品を決めているか、貴重品を耐火金庫に入れているか



4 危険物等のチェック

- 石油タンクやガスボンベなどは耐震措置がとられているか
- 化学薬品などは、専用保管庫に収納し、飛散防止措置がとられているか
- 施設に漏れ、破損、腐食等はないか
- 周囲は整理整頓され、燃えやすいものを置いていないか

地震に対する企業の備え

- 建物や施設設備、生産ライン等の耐震補強を行う。
- 消火装置など防災設備を充実し、防災用品や非常備蓄品を用意する。
- 事務機器、陳列棚などの転倒、落下防止措置を講ずる。
- 電力等のエネルギー供給やOAのバックアップシステムをつくる。
- 情報伝達のための緊急連絡網を整備する。



防災用品の準備を

地震などの災害が起こるのは、家にいるときばかりとは限りません。就業中の災害に対しても迅速で確かな避難ができるよう、最小限の必需品をまとめておくことが大切です。

また、災害発生後、救援が来るまでの3日間を過ごせるだけの準備を、社員とその家族だけでなく、できれば地域の人々への協力も考えて備えておきましょう。




非常持出品

避難するときにすぐに持ち出せるよう、リュックサックなどにひとまとめにしておく。男性で15kg、女性なら10kgが重さの目安。

非常備蓄品

災害復旧までの数日間を自活するためのもの。最低でも3日分は用意しておく。

携帯ラジオ	デマに惑わされず、正しい情報を得るため。FM、AM両方聴けるものがよい。予備の電池も忘れずに。 
懐中電灯 ろうそく	停電時や暗くなったからの移動に欠かせない。予備の電池も用意しておく。 
ヘルメット (防災ずきん)	落下物から頭部を守るため。避難路では転倒事故も多いので、必ず用意を。 
非常食・水	非常食は、カンパンなど火を通さずに食べられるもの。水はミネラルウォーターなど。 
生活用品 衣類	ライター（マッチ）、ナイフ、缶切り、ティッシュ、ビニール袋などのほか、下着、上着、手袋、靴下、タオルなどの衣類も。 
救急薬品 常備薬	ばんそうこう、ガーゼ、包帯、三角巾、消毒薬、解熱・沈痛剤、胃腸薬、かぜ薬、目薬など。 
現金	紙幣だけでなく、公衆電話用の10円硬貨なども用意したい。 

非常食	そのままでも食べられるか、簡単な調理で食べられるものがよい。アルファ米やレトルトごはん、保存のきくパン（缶詰も市販されている）、缶詰やレトルトのおかず、インスタントラーメン、など。定期的に期限を確認し、古いものから食べて、いつも新鮮なものを補充しておく。 
水	飲料水は1日1人3リットルが目安。ミネラルウォーターの保存期間は、ペットボトルで2年、缶なら3～5年程度（冷暗所に置いた場合）なので、随時、保存期限の確認を。さらに、生活用水の確保も忘れずに。 
生活用品	燃料は、短期間なら卓上こんろや固形燃料で十分。ガスボンベは多めに用意しておく。その他、洗面具、生理用品、ビニール袋、キッチン用ラップ、新聞紙、ビニールシートなど。 

阪神・淡路大震災ではこんなものが役立った！

10円玉、ドライシャンプー、ボディ洗剤、ホイッスル、ポリタンク、携帯こんろ、ボール、常備薬、予備の眼鏡など。

防災に対する日ごろからの備え

職場の防災対策を推進しよう

企業は、経済活動によって社会での大きな役割を果たし、多くの人々の生活を支えています。1日の大半を過ごす会社での防災対策は、家庭や地域での対策同様、大変大切なものです。

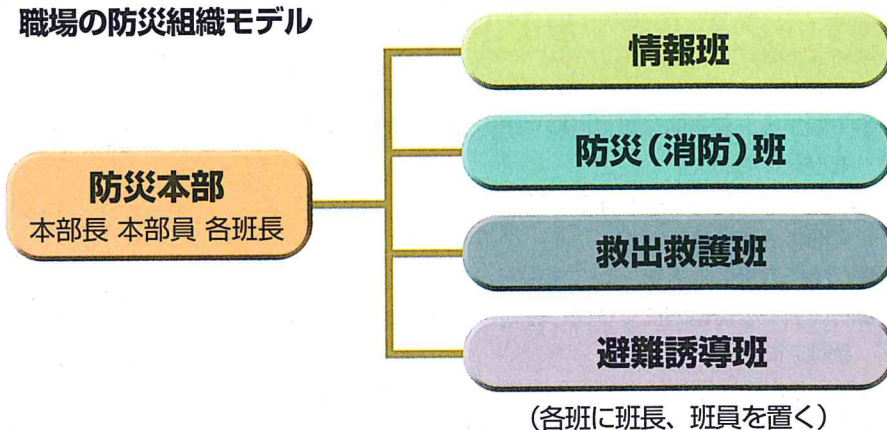
防災組織の再編を

職場全体で防災組織を編成して、職員の役割分担や責任者を決めておき、定期的に訓練を重ねておくことが重要です。

すでに自衛消防組織が編成されている職場では、この組織を利用するのがよいでしょう。

防災組織や防災計画は、全体的かつ工場・事業所別につくりましょう。

職場の防災組織モデル



防災活動ここがポイント

1 責任者を中心に対策を

災害時にいち早く防災態勢がとれるよう、担当責任者を中心として、組織全体で防災活動にとり組みましょう。



2 日ごろから各自の役割分担を決めておく

いざというとき社員が勝手に行動しても収集がつかません。職場ごとに消火担当や誘導担当など役割を分担し、社員一人ひとりが責任感を持つようにしましょう。



3 緊急マニュアルを作成する

災害の際の行動計画や役割分担を記した緊急マニュアルを作成しておき、会議や防災訓練などで確認しあいましょう。



4 防災用品を用意しておく

災害のときの避難誘導やけが人の処置を考え、ハンドマイクや医薬品などの防災用品を用意したいものです。非常持出品も準備しましょう。



5 防災訓練に積極的に取り組む

職場単位での防災訓練や防災教育を定期的、実戦的に実施しましょう。

周辺の会社や地域、自治体の防災訓練に参加して、地域ぐるみの防災活動を体験することも有効な対策です。



防災活動は職場から

なにより重要な顧客や従業員の安全を図り、自分たちの会社の財産を守るために、職場が一体となって、不測の災害に備えましょう。

防災本部は…防災組織の中心 (職場のトップが入るのが理想)

- 平素から、自主的な防災点検や防災活動を進め、成果を検証しておく。
- 基本となる防災計画やマニュアルをつくり、災害後の復旧手順を定めておく。
- 緊急時の職員の招集、連絡方法を決めておく。
- 防災訓練を定期的にくり返し実施し、職場全体の防災意識を高める。
- 職場ごとの問題討議や映画会などの防災教育を行う。
- 企業として、社員の主体的なボランティア活動を支える環境をつくる。

情報班は…災害活動の生命線

- いかに情報を正しく、確実に伝えるか、情報伝達の方法を決めておく。
- 情報を一元化して集め、本部の判断を組織全体に迅速に伝える訓練を行う。
- 電話、F a x など情報収集・伝達資機材を整備する。
- 防災機関との連携を深め、自主防災組織とも連絡をとりあう。
- 社員や家族の安否の確認方法をつくっておく。



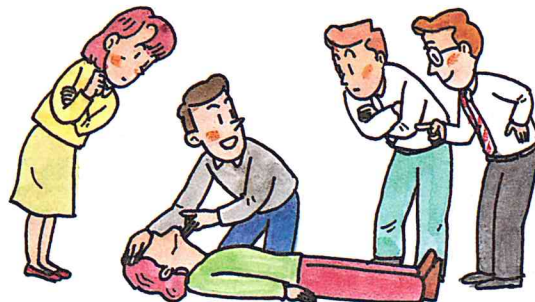
防災(消防)班は…災害の拡大を防ぐために

- 消火器や消火栓などの消防防災器具を常に点検整備しておく。
- 消火訓練では、頭でなく体で覚え、誰もができるように努める。
- いろいろな災害を想定して、防災訓練を計画的に実施する。
- 日ごろから社内での出火防止や安全管理の呼びかけ、啓発を行う。
- 防災機関や地域で行う防災訓練に積極的に参加する。



救出救護班は…命を救うために

- 施設、設備など、職場のすみずみまで知りつくしておく。
- 応急手当や災害弱者の搬出方法など、講習会等を通じて習得する。
- 救急箱や救出資機材を整える。誰でもすぐとり出せる場所に保管を。
- 買いそろえるだけでなく、職場内で利用できるものがないか、知恵を出しあう。
- 付近の病院や医療機関を確認しておく。



避難誘導班は…安全に避難するために

- あらかじめ自分の足で歩いてみて、避難通路や避難口を確認しておく。
- 非常放送設備やメガホン・懐中電灯等の器具を整備点検する。
- 職場内外の一時避難場所や最終避難場所を選び、経路を覚えておく。
- 定期的に避難誘導訓練をする。いろいろなケースを考えて十分な対策を。
- 避難経路を変えたり、カギの開け閉め、障害となるものをとり除いておく。
- 救助袋など避難設備の使用方を体験し、習熟しておく。
- 人の多く集まる施設では、安全避難や搬送方法、人員点呼の方法を確立しておく。
- がけ、ブロック塀など周辺の危険箇所をあらかじめ確認しておく。



災害について正しい知識を

災害から大事な職場を守るためには、まず、災害の種類や発生のしくみ、予想される被害の程度など、災害についての正しい知識を身につけることが重要です。

地震災害

地震発生のしくみー海溝型と活断層ー

日本列島が乗っている大陸側プレートに、海洋側のプレートが毎年数センチメートルもぐり込んでいます。そのときに大陸側のプレートが引きずり込まれ、プレート同士の境目に歪みが蓄積されます。それが限界に達し、大陸側のプレートがもとに戻ろうと急激に動いて起こるのが海溝型の地震です。

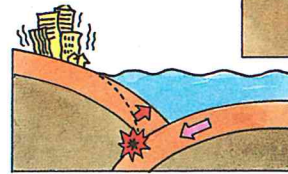
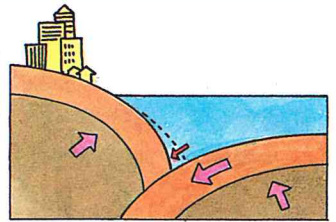
また、プレートに蓄積された歪みのエネルギーは、プレートの内部に破壊を引き起こして断層をつくり、地震を発生させます。阪神・淡路大震災をはじめ、直下型の内陸地震のほとんどは、このタイプです。過去200万年のうちに何度か活動し、今後も活動すると考えられる断層を活断層といい、日本では1,500以上の活断層があるといわれています。



平成7年1月 阪神・淡路大震災（神戸市）

海溝型地震の起こり方

- 海洋プレートのもぐり込みによって大陸プレートが引きずり込まれ境目に歪みのエネルギーがたまっていく。



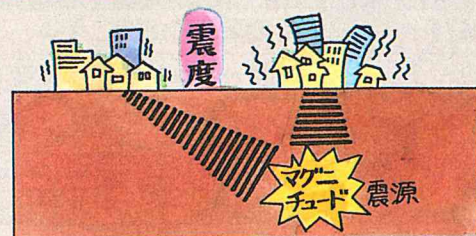
- 歪みが限界に達すると、もとに戻ろうとしてはね上がり、地震が起こる。

地震の揺れと被害想定

震度 0	人は揺れを感じない。	震度 5弱	家具の移動や、食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることもある。
震度 1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。	震度 5強	タンスなどの重い家具や、外では自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。
震度 2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。つり下がっている電灯などがわずかに揺れる。	震度 6弱	立っていることが難しい。壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなる。
震度 3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じ、棚の食器が音をたてることもある。	震度 6強	立っていられず、はわないと動くことができない。重い家具のほとんどが倒れ、戸がはずれて飛ぶ。
震度 4	眠っている人のほとんどが目を覚ます。部屋の不安定な置物が倒れる。歩行中の人も揺れを感じる。	震度 7	自分の意思で行動できない。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生する。

マグニチュードと震度の違い

地震のエネルギーの大きさをマグニチュード、各地域での地震の揺れの大きさを震度といいます。一般的にマグニチュードが大きくても、震源が遠い場合や深い場合は震度が小さく、逆にマグニチュードが小さくても、震源が近い場合や浅い場合は震度が大きくなります。



風水害

台風や豪雨の襲来は予測できるからと安易に考えてはいけません。大雨や強風は私たちに何度も大きな災害をもたらしています。油断せず、日ごろから十分な対策を立てておきましょう。



平成8年6月 集中豪雨による浸水（金沢市内）

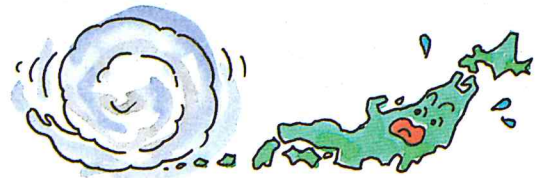
台風

日本列島には毎年多数の台風が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害を及ぼしています。台風情報に注意して、被害が出ないように備えましょう。

台風の大きさは「風速15m/s（メートル/毎秒）以上の半径」、強さは「最大風速」で表されています。

風と被害

風速10m/s	傘がさせない
風速15m/s	看板やトタン板が飛びはじめる
風速20m/s	小枝が折れる
風速25m/s	瓦が飛び、テレビアンテナが倒れる
風速30m/s	雨戸がはずれ、家が倒れることもある



台風の強さと階級分け

階級	最大風速
弱い	17m/s 以上～25m/s 未満
並の強さ	25m/s 以上～33m/s 未満
強い	33m/s 以上～44m/s 未満
非常に強い	44m/s 以上～54m/s 未満
猛烈な	54m/s 以上

※気象庁による

台風の大きさと階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
ごく小さい	200km 未満
小型(小さい)	200km 以上300km 未満
中型(並の大きさ)	300km 以上500km 未満
大型(大きい)	500km 以上800km 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上

集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ、突発的に降るため、その予測は比較的困難です。中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予測されます。がけ付近や造成地、扇状地などは気象情報に十分注意し、万全の対策をとるようにしましょう。

1時間の雨量と降り方

1時間の雨量	雨の降り方
8～15ミリ	雨の降る音が聞こえる
15～20ミリ	地面一面水たまり 雨音で話し声がよく聞こえない
20～30ミリ	どしゃ降り 側溝がたちまちあふれる 大雨注意報
30～50ミリ	バケツをひっくり返したよう 大雨警報 場合により、避難の準備を始める
50～20ミリ以上	滝のように降る 土石流が起こりやすい

※NHK気象ハンドブックより抜粋

土砂災害

急流の河川が多く、平地の少ない国土（約3/4が山地）に1億を超える人口を抱えるわが国では、多くの人々が河川や危険ながけ地に隣接して居住せざるを得ない状況にあるため、土砂災害は毎年、全国各地で発生し、大きな被害をもたらしています。普段から身の回りのがけを点検するなど、日ごろから災害に備えた準備をしておくことが大切です。

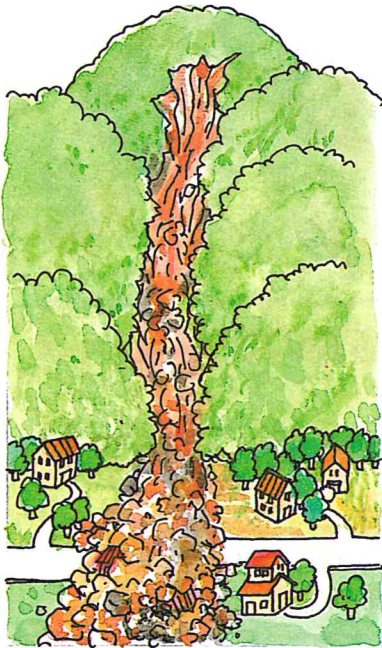


平成8年6月 集中豪雨によるがけ崩れ（金沢市内）

土砂災害の種類

土石流

谷や斜面に溜まった土・石・砂などが、梅雨の長雨や集中豪雨などによる雨水といっしょになって、一気に流れだしてくるのが土石流です。その速度はすさまじく、破壊力も大きいため、大きな被害をもたらします。



こんな前ぶれに要注意!

- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 川の流れが濁ったり、流木が混ざりはじめる

地すべり

比較的ゆるやかな斜面において、地中の粘土層などのすべりやすい面が、地下水の影響などでゆっくりと動きだす現象です。一度に広範囲で発生するため、建物や道路、鉄道などに被害を及ぼしたり、川をせき止めて洪水を引き起こすこともあります。



こんな前ぶれに要注意!

- 地面にひび割れができる
- 沢や井戸の水が濁る
- 斜面から水がふき出す

がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちるのががけ崩れです。突発的に起こり、瞬時に崩れ落ちるため、逃げ遅れる人も多く、人的な被害も多いのが特徴です。



こんな前ぶれに要注意!

- がけからの水が濁る
- がけに亀裂が入る
- 小石がぱらぱらと落ちてくる

火災

火災は、地震や風水害といった自然災害と異なり、そのほとんどが失火、すなわち人為的なミスが原因となって引き起こされています。このことは、いいかえれば私たちの心がけ次第で火災の大部分は防ぐことができるということにほかなりません。火の取扱いには細心の注意を払い、火災を防止しましょう。



小さな火事が大火災につながり、人の命と財産を奪う—これが一番おそれられること。
平成8年3月 作業所火災（金沢市内）

おもな火災(建物)の原因 (平成9年度版『防災白書』による)

1 こんろ (5,778件)

消し忘れ…4,297件
加熱する…473件
使用方法の誤り…189件



5 ストーブ (2,071件)

可燃物の接触・落下…602件
引火・ふく射…403件
使用方法の誤り…209件



2 たばこ (3,822件)

投げ捨て…1,308件
火源の転倒・落下…1,220件
再燃…296件



6 火遊び (1,243件)



3 放火 (3,293件)



7 電灯・電話等の配線 (1,073件)

短絡…521件
絶縁劣化…123件
半断線…116件



4 放火の疑い (2,485件)



8 たき火 (822件)

火の粉の飛び火…390件
たき火の延焼拡大…167件
消し忘れ…102件



災害について正しい知識を

その他の災害

災害は、いつも遠くでばかり起こるとは限りません。自然災害以外にも、突発的な事故・事件などの危機がいつあなたを襲うかわかりません。災害は日常と隣りあわせにあるものと心得て、日ごろから情報収集に努める等、いざというときに備えましょう。



平成9年1月 ロシアタンカー重油流出災害（金沢海岸）

一瞬にして襲いかかった大津波！ 地震が来たら高い場所へ避難する

北海道南西沖地震では、地震発生からわずか5分という早さで津波警報がだされましたが、震源地からわずか50kmしか離れていなかった奥尻島では、海底地形の特性なども手伝って、地震発生直後に津波が襲来、大きな被害をだしました。一方で、過去の津波警報の教訓などから、地震発生直後に山や高台などに逃れた人たちは助かっています。

津波被害が予想される地域では、地震発生と同時にまず海岸から少しでも遠い高台へ避難することが原則です。



気象注意報・警報・情報

注意報・警報とは

大雨などのときに発表される注意報や警報は、各地域の住民に注意を呼びかけ、災害による被害を最小限に食い止めることを目的としています。

注意報は災害が起こるおそれのあるときに、警報は重大な災害が起こるおそれのあるときに発表されます。

気象情報とは

気象情報は注意報や警報に先立って注意をうながしたり、注意報や警報が発表されたあとの補足や防災上の注意を解説する場合などに発表されます。

気象注意報・警報・情報の種類

	種類
注意報	風雪、強風、大雨、大雪、濃霧、雷、乾燥、雪崩、霜、低温、融雪、高潮、波浪、洪水、浸水など
警報	暴風、暴風雪、大雨、大雪、高潮、波浪、洪水、浸水など
情報	台風、低気圧、大雨、大雪、少雨、長雨、低温、日照不足など

注意報・警報は地域によって違う

注意報・警報が発表される基準は、各地域によって異なっています。日ごろから天気予報や気象情報などに関心を持ち、自分の住む地域の地理的特徴や、よくだされる予報、被害状況などを覚えておきましょう。



災害時の緊急連絡

緊急ダイヤル

警察 **110**番

消防 **119**番

通報要領 あわてず、落ちついて

① 災害・事故	火事です・救急です・救助です・災害（事故）です
② 緊急内容	が (どう) しました
③ 場所	町 丁目 番 号 目標物
④ 氏名	職場
⑤ 電話番号	☎ -

防災機関電話番号

消 防	消 防 本 部	☎224-1119	警 察	金 沢 中 警 察 署	☎262-1171
	消 防 本 部 警 防 課	☎224-8404		金 沢 東 警 察 署	☎253-0110
	広 坂 消 防 署	☎224-8414		金 沢 西 警 察 署	☎267-1241
	駅 西 消 防 署	☎231-3358		石 川 県 警 察 本 部	☎262-1161
	金 石 消 防 署	☎267-0360	電 力	北 陸 電 力 石 川 支 店	☎231-1212
	臨 港 消 防 署	☎238-1300	ガ ス 水 道	金 沢 市 企 業 局	☎220-2282
金 沢 市	総 合 防 災 対 策 室	☎220-2060	電 話	N T T 金 沢 支 店	☎220-4151
	河 川 課	☎220-2282	病 院		☎ -

職場の防災メモ

職員連絡先

集合場所 (近くの公園等)	氏 名	会社電話番号	住 所	(電話番号)
		(-)		(-)
避難場所 (学校等)		(-)		(-)
		(-)		(-)
防災本部 (会社等)	(-)	(-)		(-)
		(-)		(-)
出先機関 (支店等)	(-)	(-)		(-)
		(-)		(-)
出先機関 (支店等)	(-)	(-)		(-)
		(-)		(-)
出先機関 (支店等)	(-)	(-)		(-)
		(-)		(-)

